



2021年11月5日

日本鉄道労働組合連合会

## 連合 2022 春季生活闘争中央討論集会

### 闘争方針へJRの課題認識と働く者の想いを反映するべく発言

JR連合は、11月2日、東京都内で開催された連合2022春季生活闘争中央討論集会に出席し、基本構想に対する考えを主張した。今後、連合では、本討論集会の議論を踏まえ、12月2日に開催される中央委員会で闘争方針が確認・決定される。



集会の冒頭、連合の芳野友子会長は挨拶で、22春闘の意義と基本スタンスに触れ、『経済の後追いではなく、経済・社会の活力の原動力となる「人への投資」を積極的に求める「未来づくり春闘」を展開する』決意を述べた。そして、全ての組合が賃上げに取り組むこと、集团的労使関係を広げることの必要性を強く訴えつつ、『22春闘には、いま何をすべきで何ができるか、さらには中期的な視点を持って、それぞれの置かれた環境は異なるが、すべての働く者のために、連合・構成組織・地方連合会が一体となり闘っていこう!』と呼びかけた。

基調講演および委員会討議報告の後、基本構想や補強内容が提起された。あらためて取り巻く情勢や意義、賃上げ要求の考え方に加え、『具体的な要求目標』として、産業の『底支え』『格差是正』に寄与する『賃金水準追求』の取り組みを強化しつつ、これまで以上に賃上げを社会全体に波及させるため、『それぞれの産業における最大限の「底上げ」』に取り組み、月例賃金にこだわり、『賃上げ分2%程度、定期昇給相当分(賃金カーブ維持相当分)』を含め4%程度の賃上げを目安とすること』が示された。

全体討論では、JR連合の鎗光俊勝労働政策部長が発言に立ち、『緊急事態宣言の全面解除以降、社会情勢が変化しつつあるが、コロナ禍の甚大な影響を受けた交通運輸・観光サービス産業は依然として苦境に喘いでいること』、『回復には相当な期間が必要で、マイナス状態で22春闘を迎える「現実」』を伝え、『雇用維持や立て直しに向けた政策面の取り組みを連合闘争方針に組み込むこと』を強く求めた。また産業を支える人材の流出に対する強い危機感を訴えつつ、『22春闘では「①賃金水準の向上、②個々の労働条件を含めた働き方全般の改善、③多種多様な人材が安心して働き続けることができる職場環境の構築」』に加え、『低位に置かれているグループ企業の賃金水準を踏まえた「④JRグループ全体で生み出した付加価値の適正分配を通じた格差是正・労働条件の底上げ」』について、『労使協議を通じて一歩でも前進を図るべく、加盟組織とワンチームで取り組む決意を表明した』。連合本部からは、『産業の苦境に対する理解や、政策面の取り組み、情報交換・連携をしていく旨の答弁を受けた』。

